

働き方改革に新たな価値を提供するフェアを開催

日立システムズ

日立システムズ（東京都品川区）は働き方改革に関連する製品・サービスやセミナーを紹介する「働き方改革ソリューションフェア2019」をベルサール八重洲（東京都中央区）で開催した。半年ごとに開催しており、今回で4回目となる。「AI・IoT・スマート化が働き方改革にもたらす価値について」をテーマに総務部門のみならず、営業や生産、調達、物流など各部門に対応したさまざまなソリューションを多数展示。約330人が来場し、最新のソリューションの説明を熱心に聞き入っていた。

自社の取り組みを生かしたサービスを紹介

セミナーは11のプログラムが用意され、自社での働き方改革の取り組みをはじめ、タニタヘルスリンクやFAプロダクツなど協業企業の担当者らが働き方改革に対する取り組みやサービスについて講演した。中でもユニークなのが、「eスポーツを通じた企業活力向上施策」をテーマに日立システムズと三笠製作所が合同で実施したセミナーだ。日立システムズは世代や役職を越えた社員間コミュニケーションの活性化を目的に文化体育



日立システムズ、eスポーツ部
杉山治部長の講演の様子

クラブの一つとしてeスポーツ部を設立。社長も部員として活動し、若手社員と親睦を深めている。三笠製作所では人材採用に向けた社名認知度の向上を目的に実業団を設立しており、新聞や雑誌などに取り上げられることで採用応募者の増加につなげるなど、各社それぞれの効果を上げているという。

展示会場では、①業務効率化②AI（人工知能）③健康経営④IoT（モノのインターネット）・スマート化⑤ロボティクス⑥日立システムズの働き方改革の6つのカテゴリーごとに製品・サービスを紹介。特に会場で目立っていたのが、



会場の様子



「Connect SMILE∞ LABO」を
ライブカメラによりリアルタイムで体験

日立システムズの働き方改革×健康経営を実現する実践の場として開設したオフィス空間「Connect SMILE∞ LABO」をライブカメラによりリアルタイムで体験できるバーチャルオフィスツアーだ。このラボは同社やパートナー企業の製品・サービスの従業員による実証の場として活用し、その改善につなけるとともに、従業員の活力向上や生産性向上を図ることを目的としている。

業務の流れを意識した展示

「業務効率化支援サービス」や「製造業向けIoTソリューション」も注目を集めていた。

「業務効率化支援サービス」は“何から始めたらいいのかわからない”、“RPAツールを導入したが上手く活用できない”など働き方改革によくある問題を現状把握し課題を整理。その後、課題にあわせて各種RPA、AI-OCRなどのツールを用いた改善提案ならびに構築支



手作業でのデジタル化など現場
作業の効率化を支援する「手書
業務運用支援サービス」

援、さらにはBPOでの運用支援、アフターサポートまで業務の効率化に向けてトータル的に支援できる。

製造現場の働き方改革に役立つ「製造業向けIoTソリューション」は、IoTを用いて、数値の見える化や人手で管理している作業の自動化、デジタル化など現場作業の効率化を支援する。例えば、「手書き業務運用支援サービス」は専用のデジタルペンで書かれた文字を即デジタルデータに変換することができるシステムだ。こうしてデジタル化したデータを基に、作業工程の改善箇所を見える化することにつなげていく。

日立システムズ広報担当者は「働き方改革ソリューションフェア」を「ボトムアップで働き方改革を推進するヒントにしてほしい」と話す。同社は今後も顧客の期待に応えるため新しい価値を提供できるように「働き方改革ソリューションフェア」の工夫を凝らしていく。